

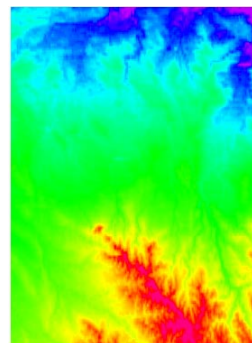
# ラスタセルのチェック

ラスタレイヤコントロールの中のオプションでは、一部の範囲をズームしたとき①セル間に分割線を表示するか、②さらにズームしたときセル値をラベル表示するかを設定できます。また、浮動小数点ラスタを表示する場合、表示小数点以下の数も指定できます。コンポジットカラーラスタでは、セルの中に、RGBの順番で複数の値が表示されます。

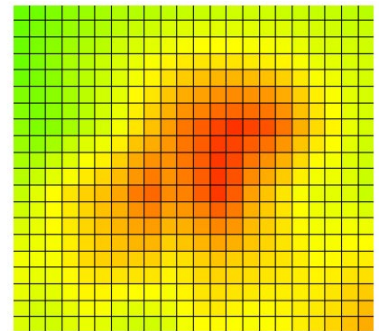
③ TNT では、拡大方法の選択や、セル分割線やラベルが使えるまでのズームレベルを設定できます。ラスタオブジェクトを描くとき、2×以上に拡大した場合、デフォルトで一番早いのは、最近隣（ニアレストネイバー）のセル値を使用する方法で、画面上に同じ値のピクセルを生成します。この方法では、拡大した画像はブロック状になります。その他の拡大方法の選択肢は、バイリニアと共一次内挿法（Cubic Convolution）のリサンプリング方法がありますが、なめらかな画像ができる代わりに、より多くの処理を必要とします。共一次内挿法は、バイリニアによるリサンプリング方法より、多少ははっきりとした画像が出来上がります。ラスタレイヤコントロールのオプションパネルより、拡大方法を選択してください。

もし、バイリニアか共一次内挿法のどちらかを選択した場合、拡大されたセルは一つの値だけでは表せなくなり、ラスタのセルの分割線がより有用となります。

ディザパターンを適用すると、印刷の際必要となりますが、これらの方法の差異ははっきりしなくなります（下図を参照）。これらの実例は印刷物よりPDFで見た方が良く分かります。もっと良いのは、実際に TNTmips でお試しください。



ラスタオブジェクト全体の表示



セルの大きさが16ピクセルより大きいとき、セル間にラインが現れます。

カラーマップを使用した

16ビットのラスタ

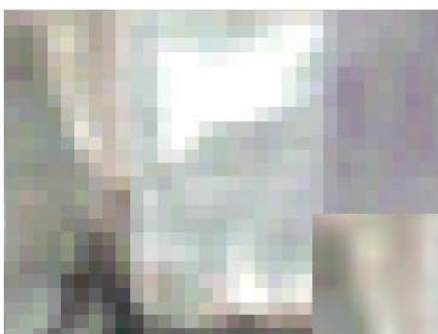
1203	1213	1220	1232	1248	1263	1281	1299	1309	1320	1324	1320
1214	1224	1231	1243	1261	1274	1283	1298	1309	1321	1320	1309
1225	1235	1243	1255	1274	1286	1286	1298	1310	1323	1317	1299
1235	1245	1253	1266	1285	1296	1287	1296	1309	1323	1313	1289

24ビットのコンポジットラスタ

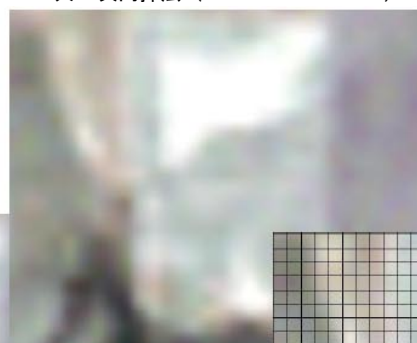
102	99	97	99	99	96	110	147	191	189	234	208	243	245
102	102	99	138	136	116	102	187	236	243	236	212	243	238
102	113	129	129	133	133	108	146	212	215	212	219	219	215
136	106	113	113	154	117	106	137	183	186	181	191	189	189
136	143	191	178	129	99	150	236	250	241	238	236	236	236
129	129	173	172	151	108	141	208	215	212	219	219	219	215
124	124	130	158	141	102	133	183	186	181	189	189	189	194
169	164	222	189	138	136	160	238	225	236	234	243	243	243
162	151	196	175	137	151	162	208	219	204	204	212	222	222
144	137	170	161	153	153	156	186	191	175	183	183	196	196

ラベルはセルの大きさが32ピクセルを超えるとときに現れ、セル値がセルの中に現れます。またセル値を、データタイプか、[セル値のチェック] ツールを使って確認することができます。

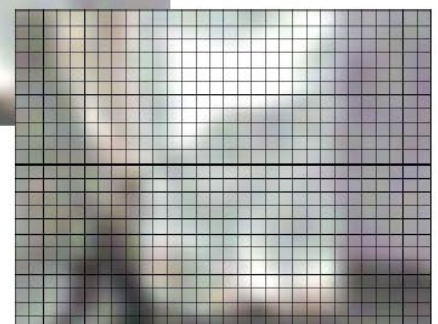
最近隣（ニアレストネイバー）



共一次内挿法（Cubic Convolution）



バイリニア



セル分割線を表示した共一次内挿法（Cubic Convolution）